様式１

令和５年度　授業改善推進プラン（中学校・学年用）

第三中学校　　第３学年

|  |
| --- |
| １　福生市学力・学習状況調査の結果 |
|  | 分類 | 意識調査の質問項目 | 学年 | 全国 |
| 学びに向かう力 | 感情のコントロール | ８　家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う。 | ８９．５％ | ９３．２％ |
| 53　自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。 | ５７．９％ | ６５．９％ |
| 54　自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。 | ９１．２％ | ９３．６％ |
| 目標の達成 | 18　普段から「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることがある。 | ８２．５％ | ７５．７％ |
| 26　ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。 | ８７．７％ | ９０．３％ |
| 他者との協働 | 117　私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。 | ８７．５％ | ８９．３％ |
| 学力と関係が深い質問 | 32　授業で習ったことを普段の生活と結び付けて考えている。 | ５６．１％ | ５１．１％ |
| 35　自分で学習の計画を立てている。 | ５２．６％ | ５１．４％ |
|  | 観点・領域名 | 学力調査の分析　○成果　▲課題 |
| 国語 | 話す力・聞く力 | ○全国平均正答率を6.2ポイント上回り、（発言の内容を選ぶ）設問に成果がある。▲全国平均正答率を下回った問題はなかった。 |
| 書く力 | ○全国平均正答率を0.8ポイント上回り、（話し合いと文章の内容を踏まえて空欄に入る言葉を書く）設問に成果がある。▲全国平均正答率を9.3ポイント下回り、（複数の条件に従って自分の考えを書く）設問に課題がある。 |
| 読む力 | ○全国平均正答率を9.5ポイント上回り、（文章中に当てはまる言葉を選ぶ）設問に成果がある。▲全国平均正答率を5.9ポイント下回り、（状況に合う説明を選ぶ）設問に課題がある。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | ○全国平均正答率を7.5ポイント上回り、（漢字の書き）設問に成果がある。▲全国平均正答率を10.9ポイント下回り、（活用が同じ動詞を選ぶ）設問に課題がある。 |
| 数学 | 数と式 | ○全国平均正答率を４．２ポイント上回り、（正しい文字式を答える）設問に成果がある。▲全国平均正答率を１０．７ポイント下回り、（文字式の除法を計算する）設問に課題がある。 |
| 図形 | ○全国平均正答率を２．６ポイント上回り、（等積変形を利用して面積の等しい三角形を求める）設問に成果がある。▲全国平均正答率を８．８ポイント下回り、（図形の性質を利用して角度を求める）設問に課題がある。 |
| 関数 | ○全国平均正答率を４．２ポイント上回り、（２点から１次関数の式を求める）設問に成果がある。▲全国平均正答率を３．０イント下回り、（変域から１次関数の式を求める）設問に課題がある。 |
| 資料の活用 | ○全国平均正答率を４．７イント上回り、（確率を求める(カード)）設問に成果がある。▲全国平均正答率を１７．４ポイント下回り、（中央値を答える）設問に課題がある。 |
| 英語 | 聞くこと | ○全国平均正答率を５．９ポイント上回り、（英文の概要を聞き取る）設問に成果がある。▲全国平均正答率を１．２ポイント下回り、（身近な内容を聞き取る）設問に課題がある。 |
| 読むこと | ○全国平均正答率を７．１ポイント上回り、（英文から要点を読みとる）設問に成果がある。▲全国平均正答率を下回った設問はなかった。 |
| 書くこと | ○全国平均正答率を３．３ポイント上回り、（活用する）設問に成果がある。▲全国平均正答率を１．５ポイント下回り、（語句や英文を正確に記述する）設問に課題がある。 |
| ２　生徒の実態 | ３　生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 |
| 【様式２に記載】 | 【様式２に記載】 |
| ４　ミライシードとの連携機能を活用した取組 |
| 個別ドリルの実施状況 | 令和５年８月末時点で完了している生徒　　９１．２％（５２人／５７人中） |
| 確認テストの実施状況 | 令和５年８月末時点で完了している生徒　　９１・２％（５２人／５７人中） |
|  |  |

様式２

令和５年度　学授業改善推進プラン（中学校・教科担任用）

第三中学校　　第３学年

|  |  |
| --- | --- |
| 国語科 | 教科担任　　湯浅　愛、平良武也 |
| 生徒の実態 | 学力調査の結果から、漢字の書きの問題や読む力が付いていると考えられる。一方、動詞の活用や、副詞を選ぶ問題などの文法の知識を問う問題や、書く力を問う問題の正答率が大きく全国平均を下回った。学校の文法テストや定期考査においても用言の活用や品詞の類別の問題の正答率は低かった。授業アンケートの結果、授業への関心意欲は低くはなく、長文の読解や創作活動に対して意欲的な意見が多かった。授業に集中できなかったり、学習内容についていけなかったりする生徒も少なからずいるため、こうした生徒へのサポートが課題となる。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | 学力調査の結果から、文法の知識や書く力に課題があると考えられる。文法の知識は主に2年で扱う内容だが、時期をみて学び直しをしていきたい。書く力については、年度当初から200字程度で自分の意見を書く練習を継続的に行っており、練習を重ねるごとに文章力がついてきているため取り組みを続けていきたい。それに加えて、文章の校正や添削を個別に行い、個々の課題をフィードバックしていくことで全体の底上げをしていきたい。 |
| 社会科 | 教科担任　　河野　伸二郎 |
| 生徒の実態 | ・積極的に発言したり、話し合ったりする生徒がいる一方、間違えることを恐れて答えを待ったしまう生徒もいる。・知識や技能の定着率が低い。・社会的事象についての特色や、それに対する自分の考えを説明することが苦手な生徒が多い。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・グループワークの際に3人班など、一人一役で協働する場面を設ける。・毎回授業で、前時の復習を小テストで行う。また、ICTを活用することで、視覚的に社会的事象をとらえて、理解の促進をはかる。・社会的事象についての特色や、自分の考えを説明する際に、ペアで考えさせることで、表現力を高めていく。 |
| 数学科 | 教科担任　　志村　聡 |
| 生徒の実態 | ・意欲的に難しい問題に取り組む生徒がいる一方、集中力が続かない生徒もいる。・学力調査の結果では文字式の除法の計算や連立方程式を解く問題の正答率が全国平均を下回った。また、錯角を利用した問題や、等積変形を利用した問題は全国平均を上回った。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・基本的な内容が身に付いていない生徒には，基本的な問題に繰り返し取り組ませる。・意欲的な生徒には，思考力を高めるような問題に取り組ませる。 |

第三中学校　　第３学年

|  |  |
| --- | --- |
| 理科 | 教科担任　　堀　和宏、野本　洋祐 |
| 生徒の実態 | ・計算力に課題がある。・論理的に思考することが苦手な生徒がいる。・知識を活用した応用問題が苦手である。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・計算問題の演習の時間を授業に組み込む。・毎回の授業で生徒が思考できるような発問をし、思考の時間をとる。・知識がしっかりと身につくように基本問題演習に取り組ませる。 |
| 音楽科 | 教科担任　　田中　悦子 |
| 生徒の実態 | ・一斉授業では、取り組みが良くなってきている。しかし。グループ学習では授業に集中し目標を達成しようと実践している生徒がいる一方、成果があがらない生徒もいる。・実技では全体を構築していく力が足りないので、完成形を見据えた捉え方に乏しい。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・グループのリーダー達の意識を高めるため、小さな目標を積み重ねていけるようリーダー性を高める。その後、グループ全体の向上を図る。・見本となる楽曲を聴かせ、どのように厚みを持たせるか考えさせながら進めていく。 |
| 美術科 | 教科担任　　大倉　知恵 |
| 生徒の実態 | ・活発で意欲的な所もあり、前向きな姿勢も見られる。・自分の表現したいイメージについて考えを深めることが少しできてきた。・取り組む姿勢に個人差がある。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・より良い作品にするためにどのように考えるのか、またはどのような方法があるのかを進行状況などを見ながら伝える。　まずは自分で考えることを大切にする。・鑑賞の時間でICTの活用をしながら意見交換し、色々な考えを知る。・色々な方法を試すように促す。 |

第三中学校　　第３学年

|  |  |
| --- | --- |
| 保健体育科 | 教科担任　　黒栁　真吾 |
| 生徒の実態 | ・体育分野の学習に積極的に取り組もうとする生徒が増えてきた。・苦手なことに対しても挑戦しようとする姿勢が見られるようになってきている。・ハードル走や持久走、８００ｍ走など体力を必要とする活動に対して消極的な姿勢が見られる。・体力がある生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・体育分野の意義を十分に説明し、意味や目的を明確にすることで主体的に取り組むことができるようにする。・ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、主体的・意欲的に取り組むことができる環境をつくる。・ICTを用いて視覚的な情報を与えることで運動のイメージをつかみやすくする。・到達目標の設定を細分化し、意欲的に取り組みやすい環境を設定する。 |
| 技術科 | 教科担任　　久保田　翔子 |
| 生徒の実態 | ・非常に積極的に取り組む。とくにプログラミングにおいては、与えられた資料等を活用し、自分なりに思考を重ねたり、他者と協働したりして、楽しそうに取り組んでいる。・集中してインプットし、必要に応じてメモをとったり、その場で質問したりすることができる。・アウトプットも同様で、高い集中力で取り組んでいる。とくにレポート作成においては、既習事項を徹底的にアウトプットしようとする生徒が多い。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・学習内容をイメージでとらえられるように、写真や動画での説明を主とする。・学習用iPadを活用し、カラー写真資料や動画配付を行い、生徒が自分の手元で何度でも既習事項を確認できるようにする。・毎時間の振り返りや単元ごとのレポート作成の時間を十分に確保し、生徒が満足するまでアウトプットできるようにする。・達成感や充実感をもたせるため、明確で全員が達成できるような目標を設定する。・向上心の高い生徒が多いので、評価のフィードバックを行う。 |
| 家庭科 | 教科担任　　英　千鶴子 |
| 生徒の実態 | ・落ち着いてかつ積極的に授業に取り組んでいる。・授業中の挙手、発言も多く授業内容をより深く理解しようという意欲が、クラス全体に見られる。・授業に関する指示には素早く行動に移し、正確に行うことが出来る。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・生徒個々が今までに習得したことを生かし、より高度な知識と意識を身につけ、努力できるような目標を設定する。・配布プリントを精査し、理解度や向上心の高い生徒にも対応できるものにする。・作品製作においては、創造力、発想力、思考力等に加え、日々の行動における丁寧な取り組みを考えに入れて製作できるよう指導する。 |

第三中学校　　第３学年

|  |  |
| --- | --- |
| 英語科 | 教科担任　　藤原　陽子、　木村　紗也佳 |
| 生徒の実態 | ［聞くこと］英文の内容を聞いて理解し、内容に合った絵を選択したり、適切な日本語で答えたりすることがとてもよくできる生徒がほとんどである。［読むこと］対話文や物語文の読解、資料の読み取りはとてもよくできる生徒が多い。［話すこと（やり取り）］ペアでの言語活動に意欲的に取り組むことができる。［話すこと（発表）］意欲的にPowerPoint等を用いて、クラスメイトの前で言いたいことを伝えることができる。［書くこと］目的・場面・状況に沿って、書きたい内容は思い浮かべてメモ書きを作成することができる生徒が多い。メモに基づいてまとまった英文にするときに、概ね正確なつづりと概ね正しい英文法で書くことができる。しかし、ごく一部の生徒は書くことをあきらめてしまう。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ［聞くこと］授業では教科書本文を音読することで英語耳を養っていく。また、高校入試を見据えた類似問題等にも取り組ませていく。［読むこと］読んでわかったことを思考ツール型のワークシートにまとめたり、問いに答えることで内容理解を促す。また、内容を理解した後に音読することで内容理解の定着を図る。最終的には分かったことを自分のメモを見ながら、リテリングすることを継続的に取り組む。［話すこと（やり取り）］Let’s Talkの単元を中心に、オリジナルskitを演じさせることや、教科書の内容理解の問いをオリジナルで作らせて、ペアでやり取りさせることを継続していく。また、授業の始めにSmall　Talkを継続する。［話すこと（発表）］良い発表を行うにはどうしたらよいかを考えさせて、自分の考えを発表するパフォーマンステストを実施する。［書くこと］ドルパークの語彙の並べかえ問題や、目的・場面・状況に合わせてまとまった英文を書くwriting taskを継続する。また、書いた英文は読み返して直したり、ALTに添削してもらってから清書することで精度の指導をしたい。 |